

2018. 8 .26 SUN

開場／13:30 開演／14:00

会場／学働館メインホール

地下鉄「阿波座」駅下車 7号出口より徒歩8分
※本町通りと新なにわ筋の交差点を西に500m

入場料／一般前売り ¥2,000 (当日 2,500円)

障害者・学生 1,500円

14時～『振って、振られて』上演



作/くるみざわしん
劇作家 劇団光の領地



演出/増田 雄
モンゴルシアターズカンパニー

出演



小石久美子
劇団大阪



宮村信吾
劇団EN



藤田和広

劇団光の領地

15時～トークセッション

『愛国』でダイジョウブ?～教育現場からの叫び～

- ・くるみざわしん (劇作家・劇団光の領地代表)
- ・芋縄なつき (フォトグラファー) ・朴亜悠 (保育士)
- ・辻谷博子 (大阪市立中学校教員)
- ・増田俊道 (府立学校教員)



主催：大阪教育合同労働組合

協賛：「ひのきみ」大阪ネット 教科書の会大阪 教職員なかもユニオン

問合せ・予約/TEL 06-4793-0633/MAIL info@ewaosaka.org

トークセッション 『愛国』でダイジョウブ？ ～教育現場からの叫び～

警察による人種差別や暴挙に対する抗議の意思表示として、アメリカンフットボールの選手、コリン・キャパニックが始めた、試合での国歌斉唱中、起立せず片膝をつくという行動は、2017年、National Football League(NFL)の選手たちの中で急速な広がりを見せました。トランプ大統領は、「国歌不起立のNFL選手はクビにしろ」と彼らの行動を非難。キャパニック選手に至っては、2016年以降どのチームとも契約できなくなり、現在はプレーしていない状態にあります。

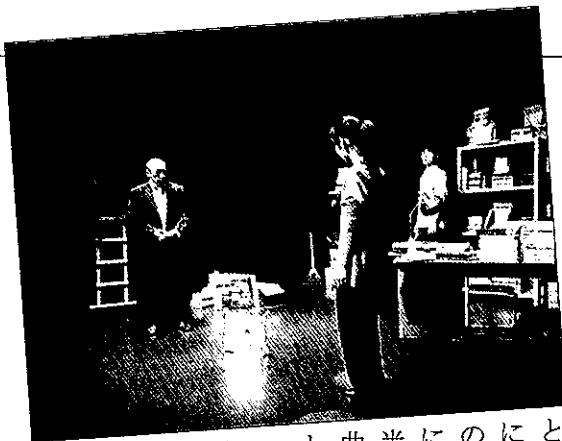
【大阪のコリン・キャパニックたち】

ここ大阪にもキャパニック選手のように、「国歌」を起立して斉唱しなかったことを理由に、減給や再任用拒否などの処分を受け、処分撤回を求め闘っている教員たちがいます。

2011年に成立した大阪府の国旗国歌条例によって、卒入学式の「君が代」斉唱時不起立した者は、戒告処分の対象になりました。しかも2012年に成立した職員基本条例との組み合わせによって、3回の戒告処分で免職処分(つまりクビ)という「3アウト制」が完成して、大阪府の教職員は脅かされ続けています。しかし2012年以降、延べ62名の教職員が処分を受けながらも抵抗を続けています。



「振って、振られて」上演後は、劇作家・くるみざわしんさん、フォトグラファーの芋縄なつきさん、保育士の朴亜悠さんとともに、「君が代不起立」処分撤回を求め闘っている教員たちが、作品の感想を語り合うとともに、じわじわと大阪の教育現場に押し寄せてきている、『愛国』教育の実態について語ります！



と演劇のレッスンに通い、発表会用の脚本を書くようになった。30代後半から本格的に戯曲の勉強を始めたという。今回の作品に取りかかったのは約12年前。劇作家の北村想さんの戯曲塾で、日本国憲法をテーマに課題が出さ

憲法とは 戯曲で問う

大阪で旗揚げした劇団「光の領地」代表で劇作家のくるみざわしんさん(51) Ⅱ 東大阪市Ⅱが10年以上かけて書き直し、完成させた。「憲法とは何か、変わったらどうなるのか、笑いながら考えるきっかけを見つけてほしい」と語る。

「振って、振られて」の舞台は、国民投票を経て3度目の改憲が決まった夜。基本的人権が大幅に制限され、改憲反対の立場で発言していた憲法学の教授は国外に脱出する準備を進める。助手も荷造りを手伝うが、改憲推進派の別の教授が国旗「日の丸」を持って現れて。憲法や日の丸について持論を曲げずに振る舞おうとする3人。その姿からは、理論に裏打ちされた強さではなく、滑稽ささえ漂わせたもろさが浮かび上がってくる。

くるみざわしんさんは精神科医。「医師として、患者さんにちゃんと届く声を」と

改憲反対・推進・・・揺れる人間心理描く

れたのがきつかけだった。第1次安倍政権時代の2006年冬ごろに書き上げた最初の芝居は約5分間の2人劇。「どんなテーマでも、芝居を書くなら専門家にならねばならない」という北村さんの言葉を胸に、専門書を読み込み、考えを巡らして、手直しを繰り返した。

「憲法は、国家という大きな権力の暴走を防ぎ、個人を守るもの。それに尽きるところ」と話すくるみざわしんさん。改憲推進派を入れた3人が登場する芝居に練り上げるまでに、社会では改憲がより現実味を帯びていった。

15年、次世代の演劇を担う人材育成をめざして仙台市が設ける「せんだい短編戯曲賞」に出品し、最終候補にノミネート。その後、さらに手を加え、約60分間になった芝居を、昨秋から長野や愛知で上演している。

演出する「モンゴルシアターズカンパニー」(拠点・大阪)の増田雄さん(30)は「信念を持っていても、雰囲気は流されてしまう人間の心理が描かれている」と話している。

(萩原千明)